



「知っている」を「やっている」へ 防災意識の強いまちにしたい



三重県四日市市桜地区自主防災協議会 女性防災隊
桜ずきんちゃん代表 高橋 恵美子

1 はじめに

10年前、地域の自主防災協議会のメンバーに名前を連ねたのが防災を知った始まりです。四日市市が主催する防災大学のセミナーに仲間と参加し、さまざまな（いろいろな）方の話を聞くにつれ「こんな大事なこと、皆が知らなければダメじゃない」と思い始めた頃、地域に女性の防災隊を作ってほしいと要請を受け結成したのが“桜ずきんちゃん”です

メンバー 7名はみな普通のおばさん。しかし全員防災大学を受講し真剣に防災を考え、防災士の資格を取りどうやって地域の人に防災意識を持ってもらうか試行錯誤しながら活動しています。仕事を持ち家庭のことをしながらですので「出来る人が」「出来ることを」「出来る時にする」をモットーに頑張っています。



桜ずきんちゃん隊員 7人

2 森を見るより 木を見る活動がしたい

防災活動というと避難方法や避難所運営の方法、防災倉庫の拡充、炊き出しなどが主流になってきます。これらはいざ災害の発生時にとっても重要なことで事前にしっかり勉強し準備しておかなければならないことです。しかし、女性目線で防災を考えた時もっと知っておきたいことがあるのではないのでしょうか。よく“水や食料を3日分備蓄しておきましょう”と言われますが、実際、何をどれくらい置いておけばいいの？具体的なことがわかりません。災害が発生した時に一番に起こる問題が「空腹」と「トイレ」だと言われます。子どもを持つ親にとって一番心配なこと、目の前の大問題です。幼い子どもを持つ人や障害を持つ家族がいる人、体の不自由なお年寄りの人はできれば避難所ではなく家で避難生活をしたいと思うでしょう。そんな人たちの目線で防災活動をしたいと思うようになりました。

3 知識は最大の防災

ライフラインがすべて止まってしまった時に知っておくと助かること、外出中だった時に知っておくと助かるもの、何をどれだけ備蓄するかを念頭に地域での講座を始めました。カセットコンロとボンベ、水と鍋があればお米が炊けるパッククッキングは実際に調理室で講義を行い実践してもら

います。

簡易トイレの使い方もトイレの重要性を十分わかってもらったうえで実際に組み立て、座ってもらって理解を深めます。

タオルで作る防災頭巾は、頭巾の中に軍手やタオル、歯ブラシ、ビニール袋、新聞紙など自分に必要なものを入れておき、普段は車の中にクッションとして置いておくと自宅以外で被災した時に持って避難所に行くことができます。備蓄は0次、1次、2次に分けて考え、他人に借りることができない物、とりあえず数日必要な物、長期間にわたって必要となる物と分類し、年配者、赤ちゃん連れの若い人達、それぞれに必要なものを考えてお話してみました。

「まずは知ることから初めてみよう」



障がい者家族団体とバッククッキング講座

4 小さい時から防災意識を そして大人へ伝えてほしい

今、特に力を入れているのが幼稚園、小学校、中学校への防災出前講座です。園児には紙芝居で忍者先生に「ダンゴムシのポーズ」や「しーっと静かにウサギ耳のポーズ」を教えます。簡単な防災のクイズに○×のうちわを挙げて答えてもらおうと大盛り上がりでした。

最後はNHKのみんなのうた「こわがりヒーロー」を歌いながら踊ってダンゴムシ

のポーズなど今習ったおさらいします。

小学校4年生から防災の授業が始まるのをきっかけに、授業の復習もかねてこちらにもクイズ形式で2択の質問をA,Bのうちわを挙げて答えてもらいます。その後、子ども達が実際に簡易トイレの組み立て体験をします。

画像を使ってトイレがいかに大事かをお話すると、皆真剣な顔で聞いてくれます。中学2年生には地域の一員である自覚をもって非常時には力になってほしいこと、地域のみんを助ける側になってほしいことをお願いし、ここでも簡易トイレの使い方を実際に体験して、復習のクイズで盛り上がりしてもらいます。

この子ども達が家に帰って食卓を囲み両親や祖父母にその話をしてくれることで普段講座に参加できない世代の人が防災に興味をもってくれることが目標です。

※令和7年度1.17防災未来賞

「ぼうさい甲子園」だいじょうぶ賞受賞

令和7年度「みえの防災大賞」で「みえの防災特別賞」受賞



園児が楽しく学ぶダンゴムシのポーズ